

ポリテクカレッジ石川

北陸職業能力開発大学校附属石川職業能力開発短期大学校 降簾 英明

1. はじめに

ポリテクカレッジ石川（以下、「石川短大校」という。）は、ものづくりができる実践的な技術者の育成を目的とした2年間の工科系短期大学校です。石川短大校は、平成元年に開校し、来年25年目を迎えるとともに、これまで、1,350人あまりの卒業生を県内外の有数の企業等に送り出してきました。

本稿では、石川短大校を少しでも理解して頂くために発行している「校長だより」の記事を中心に、必要と思われる箇所については、他の資料で補足しながら石川短大校を紹介します。

2. ポリテクカレッジ石川の概要

石川短大校は、穴水に設置されています。穴水は、能登半島の中央部に位置し、七尾北湾に面した人口約9,800人の町です。のと鉄道や能登有料道路の終点に位置し、奥能登の玄関口として能登交通の要所であり、七尾北湾の海上交通を制する要所の地でもあります。また、平成15年7月に、能登空港が開港になり、東京羽田から能登まで約1時間で来ることができます。さらに、平安時代の歴史書「日本後紀」によれば、808年には穴水の地が存在していることが確認されている歴史あるところです。

のと鉄道穴水駅から石川短大校まで行くには、駅前を右手に進み、真名井川を越え、小又川河口に架かる長谷部橋を渡ると「穴水町役場」の駐車場に至

ります。そのすぐ南東の海側の高さ約40mの急崖上に「穴水城」があり、穴水湾の海側縁のその道、町道城山線をそのまま進むと左手に、「歴史民族資料館」と「長谷部神社」が、右手にヨットハーバー（穴水宝水マリーナ）が目に見え飛び込んできます。とりわけ、穴水湾の海は、空をクッキリ映し出し、穏やかな内海にできた入り組んだ湾が、波ひとつ立てることのない穴水湾に驚かされます。そのまま、その道を登り、左手に「穴水高等学校」や「町営相撲場」と「穴水陸上競技場」を、右手に「のとふれあい文化センター」を見ながら登りきったところに石川短大校があります。

石川短大校は、のと鉄道穴水駅から約2.2km、徒歩28分、自然の豊かさや歴史の深さを肌を感じ、教育や文化の環境が整ったすばらしいところにあります。

石川短大校は、生産技術科と電子情報技術科の2科があり、生産技術科では、汎用機械、NC工作機械、CAD/CAMシステムなどを通じて加工技術の理論



と実際に学びます。電子情報技術科では、電子技術、情報技術および通信技術の3つの技術を通して組み込み技術の理論と実際に学びます。生産技術科20名、電子情報技術科30名の少人数教育訓練方式を取り、徹底した指導をしています。そのため就職のバックアップは万全です。就職率は、2年連続100%、その後の高い定着率、独自の職場定着状況調査によれば、就職後3年以内の定着率は、およそ90%以上です。就職志望のすべての学生が、石川短大校卒業後、石川県内外の元気ある・活力ある企業に就職しています。さらに、在職者の方を対象とした能力開発セミナーを実施するとともに、事業主または事業主団体等が行う職業訓練のために、石川短大校の施設設備の開放や、技能検定委員等の要望に応じて職業訓練指導員の派遣を実施しています。加えて、石川短大校の先端的な設備や研究機能を生かし、「赤崎イチゴ農場圃場の多点観測システムの構築」、「自動組紐巻き装置の研究開発」、「自動ぎんなん殻割り装置の開発」などの多様な企業ニーズに対応した共同研究等を実施しています。

3. 活動内容

では、具体的な活動内容について、「校長だより」の記事を取り上げ、必要と思われる箇所については、他の資料で補足しながら石川短大校を紹介したいと思います。

3.1 入校式

まず、入校式は、「のとふれあい文化センター」において行い、新入校生が実践技術者に必要な知識



や技能を学ぶ決意を新たにします。学生の代表は、「実践技術者としての素地を身につけ、厳しい就職状況を乗り越えたい」と宣誓しました。

3.2 交流会と球技大会

4月中旬に、生産技術科と電子情報技術科において1年生と2年生との交流会があり、昼はバーベキューで懇親を深めます。さらに、学生自治会主催の球技大会が年2回（前期・後期）開催されます。

このようにクラスの連帯感や学生同士のコミュニケーションを深め、単にテクニカルスキルだけでなく、ヒューマンスキルやコンセプチュアルスキルを大切にしています。

3.3 校内整備

石川短大校では、学生の生活指導の一環として学





生への徳育に取り組んでいます。日常的に5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）を心がけるとともに、全校的な取組みとして、各種イベント前等に校内定期清掃を実施しています。

3.4 MEX金沢

石川短大校は、毎年5月中旬に開催されるMEX金沢、いわゆる機械工業見本市金沢に参画しています。MEX金沢は、入場者数6万人と150社を超える出展者が一堂に集まる、熱気あふれる見本市です。生産技術科、電子情報技術科の全学生は、就職活動の一環として各企業ブースへ訪問するとともに、石川短大校の展示ブースの設置を行い、日頃のものづくりに対する技能の腕前を披露します。

石川県内の高校生の真剣なまなざしがとても印象的で、多くの高校生の「ものづくり」に対する関心の深さを再認識し、石川短大校のアピールを積極的



に行います。

3.5 石川県実験理科部会研修と施設説明会

石川短大校では、6月下旬に石川県実験理科部会会員（高校教員・20人）の方を対象としたセミナーを開催します。石川短大校の教員が持つノウハウを提供するとともに、同会員は、電子情報技術の先端技術に触れ、PICマイコン等の電子部品のハンダ付け作業等を通じて、ものづくりにチャレンジします。



また、高校教員を対象とした施設説明会を開催します。石川短大校の概要や生産技術科と電子情報技術科の概要、さらに、石川短大校の強みである就職状況、加えて、専門課程募集要項等について説明するとともに、その後、各科の実習場を見学します。参加高校の多くは、3年生の担任教員、若しくは、



新しく進路指導教員になられた方が多く、石川短大校に高い関心を示すとともに、最後に、学生との懇談会があり、学生は、久しぶりの恩師に近況報告を行います。

3.6 技能五輪予選（旋盤職種）

昨年の技能五輪予選は、8月5日に実施されました。石川短大校では、生産技術科学生6人が挑戦し、優秀な成績を修め、「技能証」が全員に授与されました。技能五輪の出場は果せなかったが、優秀な成績者のみ授与される「技能証」が10月4日に学生それぞれに届き、喜びを分かち合いました。関係者によれば1つの学校において受験者全員が「技能証」を授与された例は過去にないといえます。なお、「技能証」を授与された学生6人は、2級普通旋盤技能検定の実技試験が免除されることになっています。また、石川短大校卒業時に試される「技能照査」に合格すれば関係職種に係る2級技能検定の学科試験が免除されることになるため、卒業時に2級普通旋盤技能検定取得者となります。



置を行い、日頃のものづくりに対する技能の腕前を披露するとともに、実践技術者の育成を行っている石川短大校の紹介を精力的に行います。

3.8 学園祭「鳳匠祭」とポリテックビジョン

「鳳匠祭」は、11月3日の「文化の日」に開催される学生自らの手による石川短大校の最大イベントです。学生にとって大変意義のある日と同時に「学生生活の充実感」を実感できる一場面です。とりわけ、教職員と学生との人間的なふれあいを通じ、切磋琢磨しながら、道德観、責任感、忍耐力、意思伝達力、折衝力、決断力、適応力、行動力、協調性など、社会の中で生き抜くための基本的な成長を促しています。

また、ポリテックビジョンは、2月中旬の土曜日に開催される卒業研究発表会です。言うなれば、石



3.7 石川の技能まつり

石川の技能まつりは、10月に、広く石川県民に技能尊重の気運を浸透させ、技能者の地位の向上を目指し、かつ、技能水準の向上を図ることにより、石川県の産業振興に寄与することを目的として開催される技能の祭典です。生産技術科、電子情報技術科の学生と教職員は、工業系教育機関が一堂に会して学校紹介を行う「モノづくりトライアル」に参画し、ものづくりブースとして、プレスレット組立、LEDランプ組立、ペーパークラフトの3つのブースの設





川短大校での集大成である総合制作を発表する一大

イベントです。学生は、生産部門と企画開発部門との両方を理解した実践技術者として、自信を持って発表するとともに、会場からは、総合制作を行うに至った過程をも踏まえた、さまざまな質問や意見が飛び交います。時には、共同研究を実施している事業主から手厳しい意見もですが、とりわけ、すばらしかった発表には、校長から最優秀賞やトロフィー等が授与されます。

4. おわりに

この地で学ぶ学生たちには、「自然・青春・先端技術」のキャッチフレーズがともしっくりくる石川短大校です。

今後も穴水を取り巻く地域に開かれたポリテクカレッジとして、実践的な技術者を数多く地域社会に輩出するとともに、地域経済の発展に寄与すべく事業主支援などにも積極的に取り組むと考えています。